

| | | | | | |
|----------|---|----|------|----|----|
| 氏名 | 林 裕栄 | 部署 | 看護学科 | 職名 | 教授 |
| 研究分野 | 老年看護学、在宅ケア学、地域看護学、家族看護学 | | | | |
| 学位 | 博士(看護学) | | | | |
| 学歴 | 千葉大学看護学部看護学科卒業(看護学士)、埼玉大学 経済学部経済学研究科経済科学専攻(修士課程)修了(修士(経済学))、日本赤十字看護大学 大学院看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)修了(博士(看護学)) | | | | |
| 経歴 | 埼玉県保健所勤務(5年間)、埼玉県立衛生短期大学助手・講師、大学保健医療福祉学部看護学科講師・准教授を経て、平成26年～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科教授 | | | | |
| 所属学会(役職) | 日本看護研究学会(査読委員)、日本在宅ケア学会(査読委員)、日本看護学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本老年看護学会等 | | | | |

【2016年度実績】

| 1. 研究業績 | | | | | |
|--|---------|---|--|----------|--|
| 著作・論文・学会発表等の名称 | 単著・共著の別 | (1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市 | (1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印) | 発行・発表年月 | |
| (1) 著作 | | | | | |
| 1 なし | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | |
| 1 専門病院間の異動が看護師のキャリア形成にもたらす意味 | 共著 | 保健医療福祉科学、5、p.25-30 | 柳澤節子・横山恵子・林 裕栄 | 2016.4 | |
| 2 母子保健業務のスキルアップを目指した映像教材の開発 | 共著 | 埼玉県立大学紀要第18巻、p.35-40 | 林裕栄・関美雪・吉岡幸子・藤川あや・柴田亜紀・寺内祐美 | 2017.3 | |
| (3) 学会発表 | | | | | |
| 1 がんと診断された就労者が職場に感じる言いづらさ | 共著 | 第89回日本産業衛生学会、福島市、p.300 | 清野弘子・高瀬佳苗・林 裕栄 | 2016.5 | |
| 2 地域高齢者と看護学生との世代間交流プログラムの試行-参加した高齢者の交流への意欲- | 共著 | 第21回日本在宅ケア学会学術集会、江東区、東京ビッグサイト、p.413 | 林 裕栄・木村伸子・武田美津代・張平平・畔上光代・須賀夏子 | 2016.7 | |
| 3 公民館を活用する地域高齢者の活動性に影響する要因 | 共著 | 日本老年看護学会第21回学術集会、さいたま市、大宮ソニックシティ | 張平平・林裕栄 | 2016.7 | |
| 4 初妊婦の不安の内容とソーシャルサポートに関する研究 | 共著 | 日本地域看護学会第19回学術集会、下野市、自治医科大学、P154 | 関美雪・柴田亜紀・藤川あや・吉岡幸子・林裕栄 | 2016.8 | |
| 5 母子保健業務のスキルアップを目指した映像教材の評価(第1報)-子どもの発育発達の見方- | 共著 | 日本看護学教育学会第26回学術集会、新宿区、京王プラザホテル、p.168 | 林裕栄・柴田亜紀・藤川あや・関美雪・吉岡幸子 | 2016.8 | |
| 6 母子保健業務のスキルアップを目指した映像教材の評価(第2報)-新生児訪問指導及び産婦訪問指導の技術- | 共著 | 日本看護学教育学会第26回学術集会、新宿区、京王プラザホテル、p.169 | 関美雪・柴田亜紀・藤川あや・吉岡幸子・林裕栄 | 2016.8 | |
| 7 母子保健業務のスキルアップを目指した映像教材の評価(第3報)-家庭訪問の技術向上を目指す事例検討会- | 共著 | 日本看護学教育学会第26回学術集会、新宿区、京王プラザホテル、p.169 | 吉岡幸子・林裕栄・関美雪・藤川あや・柴田亜紀 | 2016.8 | |
| 8 ACT(包括型地域生活支援プログラム)開設の経緯とニーズ 2事業所の比較から | 共著 | 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会第7回学術集会-プログラム・抄録集-、越谷市、p.20 | 横山恵子・林 裕栄・松本佳子・佐藤晋爾・大橋秀行・加藤朋子・朝日雅也・市村 彰英 | 2016.9 | |
| 9 乳幼児期の子どもをもつ母親のママ友達との関わり | 共著 | 第75回日本公衆衛生学会学術集会、大阪市、グランフロント大阪P.448、 | 寺内祐美・林裕栄・関美雪 | 2016.10月 | |

| | | | | | |
|--------------|--|-----------------|--|---|-------------|
| 10 | 要介護認定を受けている透析患者のQOL～健康意識調査から～ | 共著 | 第19回日本腎不全看護学会学術集会・総会、大阪市、p83 | 吉川京子・林裕栄 | 2016.11 |
| 11 | セルフマッサージを取り入れた世代間交流プログラムの試行 | 共著 | 第47回日本看護学会―ヘルスプロモーション―、津市、三重県総合文化センター | 武田美津代、木村伸子、福田彩子、林裕栄 | 2016.11 |
| 12 | 看護大学生のボランティア活動を支える意義 | 共著 | 第20回日本健康福祉政策学会学術集会in埼玉、さいたま市、大宮ソニックシティ、 | 吉岡幸子・柴田亜紀・藤川あや・林裕栄・関美雪 | 2016.11 |
| (4) その他 | | | | | |
| 1 | クエッション・バンク介護福祉士2017第9版 | 共著 | メディック・メディア | 青木宏心 林 裕栄・宮崎伸一他 | 2016.4 |
| 2 | 看護師国家試験対策のためのメディックメディア模試2016 | 共著 | メディック・メディア | 會田信子・林裕栄・三津山信治他 | 2016.4 |
| 3 | クエッション・バンクQBケアマネ2017 | 共著 | メディック・メディア | 井上善行・林裕栄他 | 2017.1 |
| 4 | 武里団地における寿民主体の健康な街づくり-若者と築く「健康長寿武里モデル」(武プロ)- | 共著 | 【学長指定】平成28年度埼玉県立大学奨励研究報告書Ⅰ,p1-4 | 北島義典、伊藤奏・内山真理・関美雪・田口孝行・田嶋明彦・中村裕美・延原弘章・林裕栄・梅崎薫・森田満里子 | 2017.2 |
| 5 | 脳卒中高齢者の在宅療養支援に関する日中共同研究 | 共著 | 【学長指定】平成28年度埼玉県立大学奨励研究報告書Ⅰ,p17.20 | 張平平・林裕栄・金瑞華・鄭 潔 | 2017.2 |
| 6 | A市における精神障害者の包括型地域生活支援プログラム(ACT)の普及と地域ニーズに関する研究 | 共著 | 【学長指定】平成27年度埼玉県立大学奨励研究報告書Ⅰ,P.25-28 | 横山恵子・林裕栄・松本佳子・大橋秀行・佐藤晋爾・朝日雅也・市村彰英・加藤朋子 | 2017.2 |
| 7 | 新卒者等訪問看護師の育成と適応プロセスに関する研究 | 共著 | 平成28年度埼玉県立大学奨励研究報告書Ⅱ(C研究),p119-120 | 林 裕栄・武田美津代・畔上光代・須賀夏子 | 2017.2 |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | 研究名、研究代表者・研究分担者の別 | | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C) | | 看護学生と地域高齢者との世代間交流プログラムがもたらす効果に関する研究、研究代表者:張平平、研究分担者 | | 2015年～2017年 |
| 3. 教育業績 | | | | | |
| | 講義・演習・実習・論文指導等の名称 | 期間 | 概要(教育内容・方法等において工夫した点) | | |
| (1) 講義 | | | | | |
| 1 | 家族看護学 | 2016.4～2016.6 | 独自に冊子を作成。視聴覚教材の利用を行った。 | | |
| 2 | 老年看護学Ⅰ | 2016.10～2016.11 | 老年看護分野の制度政策など新しい情報を取り入れるようにした。 | | |
| 3 | 認知症看護 | 2016.10月 | 最新情報やゲストスピーカーを招き実践的な内容にした。 | | |
| 4 | 老年看護学Ⅲ | 2017.1 | 実習後の学生の学びが深まるように助言した。 | | |
| 5 | 卒業研究 | 2016.4～2017.2 | 学生2名を担当した。 | | |
| 6 | 大学院;地域ケア支援論 | 2016.10～2017.2 | 在宅療養者をもとに、地域保健福祉制度の変遷、医療提供体制や診療報酬・介護報酬の流れ、今日における地域ケアの動向と課題を教授した。 | | |
| 7 | 大学院;看護学特別研究 | 2016.4～2017.3 | 修士論文計画書作成に向けてゼミを行った。 | | |
| (2) 演習 | | | | | |
| 1 | 老年看護学Ⅱ | 2016.4～2016.7 | 後期実習に向けての演習では、学生が円滑に経験できるように助言した。 | | |

| | | | | |
|----------------------------------|---------------------|-----------------------|--|-----------------|
| (3) 実習 | | | | |
| 1 | 老年看護学実習 I | 2016.4～2016.6 | 施設および施設利用者と学生との懸け橋になるように努めた。 | |
| 2 | 老年看護学実習 II | 2016.10～2016.12 | 新規施設であったため、学生への学びが深まるように、特に施設職員と意見交換を密にして連携して支援した。 | |
| 3 | 総合実習 | 2016.4～2016.8 | 学生の課題の達成に向けて、施設との調整や学生の指導を行った。 | |
| 4 | IPW実習 | 2016.7～2016.10 | 実習の円滑化を図れるようファシリテーションを実施した。 | |
| (4) 論文指導 | | | | |
| 1 | 修士課程 | 2016.4～2017.3 | 主指導1名、副査1名 | |
| (5) その他 | | | | |
| 1 | 老年看護学実習 II 指導者会議の開催 | 2017.3 | 実習指導者と実習の進捗状況、課題等を話し合った。 | |
| 4. 社会貢献活動 | | | | |
| (1) 講演会、研修会等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会等の名称 | 主催 | 講演、研修等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | 新卒者等訪問看護師育成研修 | 埼玉県訪問看護ステーション協会 | キャリアをデザインする、事例検討会(月1回) | 2016年4月～2017年3月 |
| 2 | 第18回埼玉 老年泌尿器科研究会 | 埼玉 老年泌尿器科研究会 | 地域づくりにおける市民の力 | 2016年7月 |
| 3 | さいたま市社会福祉協議会 事例検討会 | さいたま市社会福祉協議会 | 事例検討会スーパーバイザー | 2017年2月 |
| 4 | 教養講座「健康をかんがえる」 | 春日部市中央公民館 | いつまでも元気はつらつであるために | 2017年2月 |
| (2) 国、自治体、財団法人等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、財団法人等の名称 | 委員等の名称 | | 任期 |
| 1 | 越谷市役所 | 開発審査委員 | | 2016年～ |
| 2 | もくせい家族会 | 評議員 | | 2016年～ |
| 3 | 埼玉県訪問看護ステーション協会 | 顧問 | | 2016年～ |
| 4 | 埼玉県訪問看護ステーション協会 | 新卒者等訪問看護師育成プログラム作成委員会 | | 2015年～ |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | | 年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 5. 学内運営(委員会委員) | | | | |
| 1 | 入試委員会 入試実施部会長 | | | |
| 2 | 看護学科実習調整会議長 | | | |
| 3 | 看護学科4年担任 | | | |
| 6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの) | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | | 受賞年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の保有状況 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | | 登録年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |